

生産者による花育活動

～中学生を対象とした職場体験（鉢物や花壇苗の生産）～

作成者：全国花育活動推進協議会事務局

監修：(有)ガルテン湘南代表 高橋昇

- **対象者・人数**：中学生の希望者 5～6名
(中学校の生徒の希望により、参加人数人数が変わってくる)
- **対象場所**：花き生産者（鉢物・花壇苗）の農場
- **指導者・アシスタント人数**：経営者1名と従業員1～2名
- **資材**：・花き生産に通常使用している資材・機材一式
・午後には、生産している鉢物や花壇苗で寄せ植えの実習を行うので、そのための鉢や苗、用土等を一式準備しておく。



【指導内容と目的】

- 職場体験は、生徒が直接働く人と接することにより、また、実際的な知識や技術・技能に触れることを通して、学ぶことの意義や働くことの意義を理解し、生きることの尊さを実感させることである。
- 文部科学省が定める中学校学習指導要領では、職場体験を1～2年生を対象に学習することが位置づけられており、全国の公立中学校における調査によると、約9割の中学校で様々な方法で実施されている。したがって、花き生産者が最寄りの中学校と相談すれば、職場体験先として協力することができる。
- ・職場体験は、実際に仕事を体験し、働くことの厳しさや喜び等を身をもって体験することを通して、生徒自らが体得していくものである。
- ・実際に仕事をしている人と接し、自分自身も体験することで、働くことの意義や目的の理解、進んで働こうとする意欲や態度等を育むことができる。
- ・職業人との触れ合いや交流を通して、異世代とのコミュニケーション能力を高めるとともに、社会人としての基本的マナーや言葉遣い等を身に付けることができる場でもある。
- ・地域の産業やそこに働く人々の素晴らしさや大切さを発見する場合も多く、そのことが地元に対する愛着や誇りを持つことにつながる。

1. 事前準備

中学校における事前準備

職場体験を、生徒の生き方や進路に対する意識、進路選択能力等の向上に結びつけていくためには、事前指導の充実が不可欠である。

事前指導においては、体験の内容、きまり、持ち物、マナー、安全等の基本事項の確認を中心とした事前準備的な指導と、生徒一人一人の職場体験での自己の課題発見（ねらいの理解）、体験での調査内容、進路学習全般の内容等を主体とした事前学習が考えられる。

なお、中学校は、職場体験先を選定する場合、職場体験先の仕事内容と安全性の確認が重要なポイントである。

このため、花き生産者が職場体験先として受け入れる場合には、花きの生産・出荷の年間計画を簡潔に整理しておき、いつ頃どのような農作業が体験できるか、またその安全性について問題がないか中学校に説明できるように準備しておく必要がある。また、初めて職場体験に取り組む場合には、事前に中学校の先生に農場を視察してもらうことも必要である。

中学校と職場体験先の事前打ち合わせ

職場体験を受け入れる場合には、1ヶ月前から、事前に中学校の先生と具体的に職場体験の内容について相談して確認することが重要である。

- ・体験時間（農場での集合時間と帰宅時間を確認する）
- ・仕事の内容（具体的な農作業の内容と時間配分を確認する）
- ・持ち物（農作業に必要な軍手等必要最小限のものを確認する）
- ・交通手段（各生徒の住所、交通手段等を確認し、緊急時の連絡体制を明確にする）
- ・服装（農作業ができる軽装とし、土に汚れても良いように着替えを準備させる）
- ・昼食（各自弁当を持参するものとするが、職場先で用意するもの確認する）
- ・諸経費（寄せ植えの実習等を行う場合には、その資材の経費負担を確認する）
- ・写真撮影の許可等

生徒の安全にかかわる当日の事前確認事項

職場体験は、生徒が直接職場先を訪問して帰宅することになる。中学校の先生は立ち会わないので、事前に先生とは生徒の安全に関する確認事項と連絡体制を明確にすることが重要である。

- ・予測されない状況も考えられるので、緊急連絡体制は十分に確認しておく。
- ・保護者の連絡先等を確認する。
- ・出席、欠席、遅刻、早退の連絡が確実にとれる体制を確認しておく。
- ・生徒全体の活動内容の把握を確実にしておく(出勤時間、帰宅時間、体験場所等)。
- ・生徒の終了、帰宅等の確認を取れる体制を確立しておく。
- ・緊急時(事故、体調不良等)の対応について、生徒に十分な事前指導をする。
- ・緊急時に対し臨機応変に対応できる職員の体制の確認しておく。
- ・生徒の体験活動賠償責任保険の加入等、学校側の事前対応について確認しておく。

生徒への配慮

生徒の一人一人を社会人と認めて対応するが、実際には、仕事の技術の未熟さや職業観の未発達段階にあることを十分に配慮して、農作業の内容を具体的に説明し、経営者や従業員が率先して実践を見せたり、体験を語り、主体的に取り組むように配慮する。

2. 当日の流れ

● 職場体験の当日のスケジュール

時間：1日(午前9時に生産者の農場に集合～午後3時に帰宅)

午前：9時集合。最初、30分程度で農場の見学・説明を行う。

10時～12時、農作業(鉢物や花壇苗のスペーシング・追肥・移動等単純作業、汗をかくことを体験させる)。

午後：12時～13時、昼食(経営者は生徒と一緒に食事して懇談する)

13時～14時、農作業(鉢物や花壇苗の枯れ葉とりや花粉の交配等花に触れる作業を体験させる)

14時～15時、寄せ植え体験(生産している鉢物や花壇苗を使用して寄せ植え体験させて、花や土に触れる楽しさを実感させる)

15時、帰宅(各自が作成した寄せ植え作品を持参)

● 職場体験の当日の指導ポイント

①最初に、農場に来た生徒ときちんとあいさつして、生徒の集合と体調の確認を行い、中学校の先生に連絡する。農場の見学・説明では、まず、経営者が自己紹介を兼ねて自分の就農経験を話すとともに、農場の経営概要、栽培している主な品目・品種の特性及び本日用農作業の内容や必要性等について簡潔に整理した資料を事前準備して説明する。特に、農作業の安全確保については、各作業段階でも、実践を示して具体的に説明する。

②午前中の農作業については、2時間程度、鉢物や花壇苗のスペーシング・追肥・移動等単純で体力的にも厳しい農作業を配分して、汗をかくことを体験させるようにする。なお、昼食時間は、時間を十分とり、休息ができるように配慮する。



③昼食は、生徒が各自弁当を持参するが、生産者が自給している野菜を活用した豚汁等を用意し、経営者等は生徒と一緒に食事して、リラックスした雰囲気の中で、経営者として花き生産の内容や創意工夫していることや職業観等について語りあうように配慮する。

④午後の農作業については、枯葉とり、花粉の交配等直接花に触れるきめ細かな軽作業体験させるよう工夫をする。



⑤花や土に触れて、その魅力をさらに深く感じてもらうため、生産している鉢物や花壇苗の中から自ら素材を選ばせ、寄せ植えを体験。その作品を持ち帰ってもらい、花のある生活を体験してもらう。なお、切り花生産者の場合は、フラワーアレンジを実習させることもできる。



● 中学校における事後指導

中学校では、職場体験後に以下のような授業を行い、その学習効果をより一層高めるよう配慮している。

- ・ 職場体験の報告（職場体験ノート、記録、感想等のまとめ）
- ・ 礼状の作成（職場体験先へ参加生徒一人一人がお礼状を作成して送る）
- ・ 事後訪問（生徒自身が自主的に職場体験先を訪問する）
- ・ 職場体験の発表会の実施、プレゼンテーションの方法等（場合によっては、職場体験先の関係者が招待されることもある）
- ・ 職場体験先からの意見や評価の把握

